



# 総 会

## 1. 開催日時及び場所

令和5年7月6日（木） 13時30分～13時50分  
中国地方整備局建政部3階会議室

## 2. 審議概要

- ・ 委員長の選出及び委員長代理の指名
- ・ 委員の所属部会の指名

「3. 委員名簿」のとおり、委員長、委員長代理の選任と、各委員の所属部会の指名がされました。

## 3. 委員名簿

委員長 (第一部会)	<small>にしむら</small> 西村	<small>しんいち</small> 伸一	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
委員長代理 (第二部会)	<small>すずき</small> 鈴木	<small>もとゆき</small> 素之	山口大学大学院創成科学研究科教授
委員 (第一部会)	<small>いしい</small> 石井	<small>よしひろ</small> 義裕	広島工業大学工学部環境土木工学科教授
委員 (第一部会)	<small>ためすえ</small> 爲末	<small>かずまさ</small> 和政	弁護士
委員 (第一部会)	<small>つかはら</small> 塚原	<small>いちろう</small> 一郎	県立広島大学地域創生学部准教授
委員 (第一部会)	<small>やまだ</small> 山田	<small>きえ</small> 希恵	公認会計士
委員 (第二部会)	<small>じんの</small> 神野	<small>れいせい</small> 礼斉	広島大学大学院人間社会科学研究科教授
委員 (第二部会)	<small>みやち</small> 宮地	<small>ひろし</small> 宏	中国経済連合会常務理事

※ 第一部会は港湾空港関係を除く事項について審議

※ 第二部会は港湾空港関係の事項について審議

## 中国地方整備局入札監視委員会（第一部会） 審議概要

開催日時及び場所	令和5年7月6日（木） 13時50分～16時30分 中国地方整備局 建政部 3階会議室	
委員	部会長                   西村 伸一   （大学院教授） 委 員                   石井 義裕   （大学教授） 委 員                   爲末 和政   （弁護士） 委 員                   塚原 一郎   （大学准教授） 委 員                   山田 希恵   （公認会計士）	
審議対象期間	令和4年10月1日 ～ 令和5年3月31日	
抽出案件	総件数   8件	（備考） 審議対象工事等の案件については、 別紙1のとおり
○工事		
一般競争入札方式 （WTO対象）	1件	
一般競争入札方式 （WTO対象外）	4件	
○建設コンサルタント業務等		
簡易公募型競争入札方式	1件	
簡易公募型プロポーザル	1件	
○役務の提供等及び物品の製造等		
一般競争入札方式	1件	
	意見・質問	
委員からの意見・質問、 それに対する回答	別紙2のとおり	別紙2のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

別紙1 抽出事案一覧（期間 令和4年10月1日 ～ 令和5年3月31日）

【工事】

入札方式	工事名	工事種別	入札者数	契約額(千円)	落札率	事務所等	備考
一般競争 (WTO対象)	令和4年度岡山地方方法務局建築その他工事	建築工事	8	1,450,900	97.20%	営繕部技術・評価課	
一般競争 (WTO以外)	令和4年度天神川野添5号砂防堰堤付替道路(その6)工事	一般土木工事	2	93,500	98.89%	倉吉	
	令和4年度広島維持出張所管内区画線工事	塗装工事	1	105,050	99.41%	広島国道	
	令和4年度島地川ダム放流制御設備工事	通信設備工事	2	59,730	99.07%	山口	
	令和4年度国道2号百間川橋耐震補強補修工事	橋梁補修工事	7	124,850	99.35%	岡山国道	

【建設コンサルタント業務等】

入札方式	業務名	業種区分	入札者数	契約額(千円)	落札率	事務所等	備考
簡易公募型競争	令和4年度広島西部山系伴中畑地区外砂防設備設計業務	土木関係建設コンサルタント業務	10	34,221	79.36%	広島西部山系砂防	
簡易公募型プロポーザル	令和4年度山陰西部国道事務所管内DX推進業務	土木関係建設コンサルタント業務	2	20,350	100.00%	山陰西部国道	

【役務の提供等及び物品の製造等】

入札方式	件名	業務分類	入札者数	契約額(千円)	落札率	事務所等	備考
一般競争	令和4年度電話交換装置購入	物品の販売	1	14,300	100.00%	三次	

別紙2 委員からの意見・質問、それに対する回答

意見・質問	説明・回答
報告及び審議	
(1) 入札・契約手続きの運用状況等の報告	
1) 入札方式別発注工事 2) 入札方式別発注業務 3) 入札方式別発注役務の提供等及び物品の製造等 4) 指名停止等の運用状況 5) 談合情報等の対応状況 6) 再度入札における一位不動状況 7) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 8) 一者応札の発生状況 9) 不調・不落の発生状況 10) 高落札率の発生状況	
(2) 抽出事案審議	
1) 令和4年度岡山地方法務局建築その他工事  Q1. 落札率が97.5%となっているが、高落札率のものについて、何か調査を行っているのか。  Q2. 予定価格の超過者が5者と多いように思えるが、理由はあるか。  Q3. 技術提案型の公募であるが、技術提案による加算点が41.0点の者が多く、技術提案型はうまく機能していると言えるのか。バリエーションある提案がなされて、その中で1番良いものが高い評価というのが必要と思うが、そうなっているのか。似たような提案ばかりとなっているのか。  ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A1. 高落札率の調査は行っていない。  A2. 本件は、専門業者から見積を徴取する項目が多く、昨年度特に資材価格が上昇傾向にあり、各者それぞれの取引先からの見積価格によって異なるため、参加者によっては見積価格が高かったのではないかと分析している。  A3. 各視点について、それぞれ「優」、「良」、「可」で評価を行っている。同じような提案もあるが、さまざまな提案がされており、それを評価した結果となっており、問題ないと考えている。
2) 令和4年度天神川野添5号砂防堰堤付替道路(その6)工事	

<p>Q 1. 入札調書に記載の入札日時について、本件は2回開札を行っており1回目の日時が記載されていると思われるが、2回目の日時はどうなっているか。</p> <p>Q 2. そんなに早く、参加者は2回目の応札ができるのか。</p> <p>Q 3. 応募資格のある者は多いが、最終的に応札したのは2者となったのは、何か難しい点があったのか。応札者が少ないように感じるが、その点どう考えているか。</p> <p>Q 4. 応札した2者の加算点が、同種工事の工事成績で差がついている。技術力が必要な工事のため、参加者も少なかったし、同種工事の実績・経験を高く評価するということか。</p> <p>Q 5. この案件に限らないが、昨今、材料とか燃料費の高騰が続いている中で、予定価格は従来に比べ、どれくらい織り込んで算定されているか。</p> <p>Q 6. この案件は入札が3回行われているが、入札は何回まで行うのか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 記載されている日時は、1回目の開札日時となっている。1回目で予定価格内の応札がなかった場合、速やかに2回目に移行することとなるので、1回目の開札日時以降に速やかに2回目の入札を執行している。</p> <p>A 2. 入札参加者は、準備をされているものと考えている。</p> <p>A 3. 本工事は、山間部の狭隘な施工ヤードで施工となる。また、冬期の施工と厳しい条件のため参加者が少なかったのではと考えている。</p> <p>A 4. 加算点については、完成した工事成績により差がついている。応札者が少なかったのは、現場の条件が砂防地区の非常に厳しい条件となっているので、少なかったものと考えている。</p> <p>A 5. 発注時点での単価を使用しており、契約後、急激な単価の高騰があれば、協議により契約額を変更できるよう契約書で定めている。</p> <p>A 6. 3回目を限度としている。</p>
<p>3) 令和4年度島地川ダム放流制御設備工事</p> <p>Q 1. 本件については、1者応札の発生状況の資料に記載されていないが、1者応札に該当しないか。</p> <p>Q 2. この設備は、落札者が製作したものか。</p> <p>Q 3. 制御機器とは、製作しただけでなく、後々のメンテナンスが重要になってくるが、本件は今後のメンテナンスも含んだ発注となっているのか。</p> <p>Q 4. メンテナンスが必要となったら、別途発注するということか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 本件は、入札を辞退した者を含め2者に対して競争参加資格の確認を行っているため、資料-1の1者応札には該当しないため記載していない。</p> <p>A 2. そうである。</p> <p>A 3. 本件は、メンテナンスは含んでいない。</p> <p>A 4. そうである。</p>

<p>4) 令和4年度広島西部山系伴中畑地区外砂防設備設計業務</p> <p>Q1. こういった業務は積算が難しいと思われるが、入札価格が似通っている。こういった背景があるのか。</p> <p>Q2. 入札価格が、調査基準価格と同額の場合は、低入札価格調査の対象とならないということで良いか。</p> <p>Q3. 応札額も技術評価点もわずかな差しかない。応札した各者の差というのは今の方式で判断できているのか。</p> <p>Q4. 担当者からすれば、差が明らかということか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A1. 本業務は、標準的な歩掛かりと、一部の工種は歩掛かり見積を徴収している。いずれの歩掛かりも公表しているため、応札された各者は予定価格、並びに調査基準価格ともに類推は可能である。過去に発注された砂防堰堤設計業務においても、調査基準価格と同額で落札されていることから、落札には調査基準価格での応札が必要と判断されたのではないかと考えている。</p> <p>A2. そうである。</p> <p>A3. 本件では、実施方針の「業務に対する知識、有益な代替案、重要事項の指摘」の項目で落札者が他者より高い得点となっている。各者から提出された技術提案書を評価する中で差がついている。</p> <p>A4. 本件では、他者に比べて優れた提案ということで、評価点として差がついている。</p>
<p>5) 令和4年度広島維持出張所管内区画線工事</p> <p>Q1. 道路工事が可能な業者は多くいるものの、応募が1者だけしかなかったことをどう捉えているか。</p> <p>Q2. 1者応札が続くことに対して、どう考えているか。</p> <p>Q3. 参加可能者数が143者とされているが、実際の応札は1者となっている。参加可能者数が実態にそぐわなくなっていないか。実際には施工が難しい、制約が大きいという問題があるのではないか。施工の難しさ、制約を</p>	<p>A1. 広島維持出張所管内の施工範囲が広い点、また広島市周辺の都市部で交通量が多いため、夜間施工もしくは車線規制の必要があり、条件が非常に厳しいことから敬遠され、1者になっているのではと推測している。多くの者に参加してもらえるように、参加資格の条件の緩和、チャレンジ型の導入など間口を広げている。</p> <p>A2. 結果として1者応札となったものと理解している。</p> <p>A3. 参加者が少ないことに対して、参加要件の緩和を行っている。同種工事の要件を従前は、「区画線工事の施工実績」としていたところを「道路工事の施工実績」に広げている。</p>

<p>解消するようなことは考えていないか。</p> <p>Q 4. 加算点の合計が41.0点の満点となっているが、これはよくあることか。チャレンジ型は比較的高得点を取りやすいということがあるのか。</p> <p>Q 5. 今回、参加要件を緩和したということだが、今回はまだ、参加者が十分に広がらなかったということがあるかもしれない。将来的には、参加者が広がっていく考えか。</p> <p>Q 6. 整備局管内の他の区画線工事の応札状況はどうか。他でも1者応札が多い状況か。</p> <p>Q 7. 一般的には、競争性が確保されていると考えて良いか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 4. 推測であるが、区画線工事は毎年発注しており、この応札者は受注意欲が高く配置予定技術者など高評価となるように申請しており、高い加算点になっている。</p> <p>A 5. そうなればと考えている。</p> <p>A 6. 他の工事では、3～5者が応札されている案件が多い状況である。</p> <p>A 7. そうである。</p>
<p>6) 令和4年度国道2号百間川橋耐震補強補修工事</p> <p>Q 1. 入札が、無効になった者があるが、理由は何か。</p> <p>Q 2. 1者について3億円というかなり開差のある額で入札しているが、どういった理由か。</p> <p>Q 3. 入札調書について、施工体制評価点が記載されていない者は、応札額が予定価格を超過しているため評価を行っていないということで良いか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 応札額が調査基準価格を下回っており、施工体制の確認のための資料提出の依頼を行ったが、資料提出がなされなかったため、入札を無効としたものである。</p> <p>A 2. 公表されている歩掛り等により積算しているが、一部、材料価格を見積徴収して積算している項目があり、それについては公表していない。このため、各者が取引価格により積算を行い応札しているが、その者は取引価格が非常に高額であったのか、材料の規格などを勘違いされている可能性が推察される。</p> <p>A 3. そうである。</p>
<p>7) 令和4年度山陰西部国道事務所管内DX推進業務</p>	



<p>Q 1. 比較的新しいテーマであり、多くの者がチャレンジしたら良いと考えるが、最終的に2者しか参加しなかったのは、何かハードルが高いのか。2者しか参加されなかった理由をどう考えているか。</p> <p>Q 2. 今回、効率化ツールを導入したり、効率化に資する取り組みをいろいろ試して、その中から実践に耐え得るものを構築化していくイメージだが、今回の業務を踏まえて、次年度以降もこういった取り組みは継続して行く予定か。こういった形で発展させて行くのか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 1. 理由としては色々あると思われるが、具体的なところは判らない。参加要件としては広く設定しているところであり、今後いろいろなDXの取り組みが進む中で、参加者が増えることを期待している。</p> <p>A 2. 昨年、この業務を行い、例えば用地DXであれば、実際に現地に行かなくてもライブで現地の状況を配信しながら、地権者へ説明するという取り組みを行おうとしている。また、CIM統合モデルの活用ということで、今後事業全体で統合できるよう取り組みを進めている。その他、VR、ARといった新しいツールも活用しながら事業を推進していく予定である。</p>
<p>8) 令和4年度電話交換装置購入</p> <p>Q 1. 参加資格確認結果についてA社は、「納入実績がない」ということで、参加資格なしとなっている。参加資格は公表されているのに、なぜ応募されたか把握しているか。</p> <p>Q 2. 今回導入されるのはPHSの電話機となっているが、この時代にわざわざPHSを導入するのはなぜか。</p> <p>Q 3. PHSの電話機が、IP電話の持ち歩き用の端末として使用できるため、導入するということが良いか。</p> <p>Q 4. 落札率が100%であるがその理由をどう考えているか。</p> <p>Q 5. 入札参加者の見積を予定価格として採用しているということか。見積を徴収する場合、複数の者から徴収するのではないのか。</p>	<p>A 1. 納入実績として提出された書類は、非常用電話を設置した実績であり、本件で条件としている電話交換装置を納入したものではなかった。申請者の間違いによるものと推測している。</p> <p>A 2. 当管理所においても防災対応を行う必要がある。出水によるダム操作であったり、ダムの堤体の漏水状況などさまざまな変状を確認する必要があり、机上にある固定のIP電話では連絡が取れない場合がある。電話機を持ち歩いて連絡を取り合う必要から、PHSを導入するものである。ダムの堤体内はコンクリートの塊の中のため、携帯電話では通信ができないためである。</p> <p>A 3. そうである。</p> <p>A 4. 予定価格の積算は、見積を徴収して提出された1者の価格を採用している。採用した見積と同額の100%の落札率となったものと推測している。</p> <p>A 5. 予定価格算定のための見積徴収の依頼は4者に行ったが、3者からは提出を辞退された。その結果、提出のあった1者の見積価格を採用している。</p>

<p>Q 6. 見積を辞退されたのは、例えば前の交換機が、今回落札された業者が導入したものであるとか、何か背景があるのか。業者の繁忙期であるとか、価格が見合わないとか、要因について分析を行っているか。</p> <p>○本件入札・契約は適正であると判断する。</p>	<p>A 6. 推察であるが、コロナ禍により半導体の確保が困難であった事が理由ではないかと考えている。</p>
<p>(3) 再苦情処理の審議・報告</p>	
<p>該当事案なし</p>	
<p>(4) その他</p>	
<p>なし</p>	